

誤植の殿堂『説日語』

— その誕生と変遷（九）

國 分 建 志

1. はじめに

前稿（國分 2019）では、新たに入手した2種類の陝西版『説日語』の特徴を分析し、両テキストが既存の6種類のテキストとどのような関係にあるのかを考察した。その結果、陝西版ははじめに2種類のテキストが作られ、その後それぞれに増補や改訂が加えられていったという前々稿（國分 2017）の結論に大筋で変わりはなかったものの、その際に想定したテキストの製作順序には一部修正すべき点もあることが分かった。

こうした知見を踏まえて、本稿では國分 2016 で取り上げた陝西版の海賊版について再度考察してみたい。陝西版の海賊版については、陝西版を全面改訂した西北版の「再版声明」に、改訂理由として海賊版の横行が挙げられていることからその存在は窺えたものの、本研究を始めた当初はなかなか実物が手に入らず、本当に海賊版が出回っていたのか確信を持ってない面もあった。しかし國分 2016 で報告したとおり、テキスト収集の結果、数種類の実物を入手し、ようやくその存在を裏付けることができた。ただこの段階ではまだ概略的な考察にとどまっていたことや、その後新たなテキストを入手できたこともあり、今回はそれぞれのテキストの特徴をもう少し掘り下げて分析したいと思う。

2. 海賊版の種類

國分 2016 の段階では、陝西版の海賊版には以下のテキストがあることが分かっていた。

- ① 陝西版を模倣した（狭義の）海賊版

②本文等は陝西版にもとづくが、表紙等は西北版を模倣した「西北偽装版」(2種類)

その後、新たに次の2種類が発見された。

③①とほぼ同一ながら、後述するように手書き箇所が増えているもの

④①～③とは異なるタイプのテキスト

本稿では①を a1, ③を a2, ④を b とする。これにより現時点では5種類の海賊版が存在することになる。

なおこれらのほかに、陝西版から派生したと見られる海賊版がもう一つあることが最近分かった。それは國分 2011 で西北版の海賊版 f (風来坊本②) としたテキストである。f は『説日語』を模倣した例文と、出所の分からない例文とが混在しているが、表紙等に西北版のデザインが使われていることから、國分 2011 では西北版の海賊版に分類した。しかしその後の調査の進展を受けてあらためて例文を見直したところ、『説日語』から流用した例文は西北版ではなく陝西版を下敷きにしており、これも一種の「西北偽装版」とすべきものであることが分かってきた。また f には類似するテキストが複数見つかっており、中には編者の名前が別人に変わっているものまである。

このように f を含むテキスト群は純粋な海賊版と見なすにはやや異質な存在であることから稿を改めて論じることとし、本稿の分析対象からは外しておく。

2. 1. a1, a2 について

國分 2016 で述べたように、a1 には扉や奥付がなく⁽¹⁾、海賊版には珍しく手書き文字が使われている。また正規版では、一部の例文の中国語訳や章の見出しの頭に三角形の記号がついており、a1 も最初のうちはこの記号を用いているが、途中から「>」という記号に変わっている⁽²⁾。

新たに見つかった a2 は上記の特徴を含めて a1 と字句やレイアウトがほぼ重なり、同じページの同じ箇所共通して現れるインク汚れも多く観察される。ただし、a1 には手書き文字が四つあるのに対して⁽³⁾、a2 ではさらに p. 202 の「小皿」に手書き文字が見られるのが唯一異なる点である⁽⁴⁾。こう

したことから a2 は a1 に手を加えて作られた可能性が高いように思われる。

また a1, a2 には日本語の誤植に以下のような傾向が見られる。

①長音記号「ー」の大半が漢字の「一」に誤植されている。以下に具体例をいくつか挙げる（なお〔 〕内には本来あるべき表現を適宜補う）。

7番のトロ〔ロ〕リーでいいです。(p. 50)

タクミーでとこでもいくことができます (p. 81)

オートバイ (p. 93)

コンピュータ (p. 126)

ダンスホール (p. 145)

ローストチーケン (p. 195)

メーデー (p. 226)

同様の誤植はルビの一部にも見られる。なお正規版や b にこの種の誤植は現れないが、2種類の西北偽装版にはわずかに観察される。

②促音や拗音および外来語の表記に使われる小書き文字のほとんどが同じ仮名の並字か別の仮名になっており、小書き文字で使われているのは平仮名の促音「っ」しかない（ただし「っ」が並字の「つ」に誤植されている箇所もある）。

以下、正規版の小書き文字が a1, a2 で並字に誤植された例の一部を挙げる（なお（ ）内には正規版の表現を適宜示しておく）。

拗音

しゃぶしやぶ（しゃぶしゃぶ p. 194）

じゅうげんです。（じゅうげん（十元）です。p. 96）

ひょうきんです。（ひょうき〔びょうき（病気）〕なんです。p. 165）

あのワイシヤツはきれいです (p. 116)

オレンジジュース (p. 188)

サービス・ステーション (p. 143)

片仮名の促音

コッピー（コピー p. 126）

テレツクス（テレックス p. 162）

外来語

ソファー (p. 235)

カラーフィルム (p. 233)

ダンスパーティーに参加してください。(ダンスパーティーに～ p. 47)

フオーク (p. 201)

他の仮名に変わっているケース

ひゆくまん (ひやくまん p. 101)

いらっしゆいませ。(いらっしやいませ。 p. 119)

りすう (りょう (両) p. 109)

チャンピオン (チェンピオン p. 218)

メニューをください。(メニューを～ p. 184)

③「る」から「ゐ」への誤植が多い。これは字形の類似から起きた誤りで、他の海賊版にも散見されるが、a1, a2には頻出し、24箇所もある（なお正規版には一つもない）。以下に一部の例を示す。

あなたはことづけることができますか。(p. 64)

はるか〔はる(春)が〕あたたかいです(p. 98)

皆は全部中で〔車で〕旅行する(p. 146)

わたしは電話〔電話〕をかけることができますか(p. 164)

どこで雨替〔両替〕することができますか。(p. 181)

あなたはお金を換えることができますか。(p. 181)

煎る 煮る くすぶる 食べる(pp. 193-194)

しいたけと肉を炒める(p. 197)

运动会〔運動会〕を参加する。(p. 217)

体育試合を見る(p. 218)

中国に駐在する事務所〔事務所〕(p. 224)

④「こ」が「て」に、「ご」が「で」になる誤植も比較的目的立つ。これもけっして珍しいものではないが、a1, a2には比較的多く見られ、特に本文の最初の方にのみ集中して9箇所に現れる。

ようてそ、いらつしやいました。(p. 2)

ありがとうございます。(p.2)

わはようございます [おはようございます]。(p.5)

てんげんけ [こんばんは]。(p.6)

でめんください。(p.6)

どうぞで飯 [ご飯] を食べてください。(p.7)

でめんなさい。(p.8)

どうもありがとうございます。(p.9)

道中で无事 [ご無事] で。(p.19)

なお本文中盤以降になると逆のケース (て→こ, で→ご) も4例現れる。

学校で勉強しこいる [している] 人もあります (p.70)

私は販売員 [販売員] ぞす。(p.128)

二階ご杂货 [二階で雑貨] と服装を売ります。(p.129)

あなたははにわ (兵馬俑) ご [はにわ (兵馬俑) で] 紀念品になるようなものが買 [買] たいですか。(p.142)

2. 2. bについて

次にbの外観や構成には以下のような特徴が見られる。

① bの表紙と裏表紙には、正規版や他の海賊版にはついていない袖がない。また正規版は表紙の題字“**说日语**”に金字を用い、a1, a2もそれに倣っているが、bは黄色になっている。さらにbは表紙全体に「見当ずれ」が起きている。

②正規版は奥付が扉の裏面にあるが、bは巻末(本文p.237の裏面)にある。

次に表記や表現上の特徴として以下の点が挙げられる。

① a1, a2と異なり、手書き文字はない。

②正規版で一部の例文の中国語訳や章の見出しの頭についている三角形の記号について、a1, a2と同様、bもはじめはそれに従っているが、途中から「**≧**」という独特な形の記号に変わっている⁽⁵⁾。

③小書き文字は「つ」を除いて大半が並字になっているが、a1, a2と異

なり、以下の3箇所の拗音だけ正規版と同じく正しく表記されている⁽⁶⁾。

じゅうばーです。(じゅうげん(十元)です。p.96)

きゅうす(p.202)

ひょうき〔びょうき(病気)]なんです。(p.165)

④正規版も他の海賊版もルビには簡体字が使われているが、bのpp.154-155だけ、五つの例文中、最初を除く四つのルビに繁体字が使われている。

⑤bに特有の誤植例として以下のようなものがある。

どえもありがとうございます。(p.16)

あなたのことばはわかりませんめ(p.35)

あみません〔すみません〕ね、で面倒〔ご面倒〕をおかけました。(p.44)

ダンスパーテナイ〔ダンスパーティー〕に参加してください。(p.47)

たびん夜12時でしょう。(p.56)

あまり遅くないですべ(p.56)

わたしはうれしい〔うれしい〕ですぬ。(p.58)

あそこに理髪店がありまあ。(p.62)

ふたつはずんび〔ぜんぶ〕好きです。(p.63)

どとら〔どちら〕へおいでですか。(p.77)

おすまいはどら〔どちら〕ですか。(p.77)

どこにでんわがありありますか。(p.78)

ちよつさつてくがさい〔ちょっとまってください〕。(p.134)

シセンプ——〔シャンプー〕しますから、どうでこさらへ〔どうぞこちらへ〕。(p.140)

つかれたので休みたいべ。(眠りたい)(p.148)

さよっとおタずが〔ちょっとおたずねしますが〕、郵便局は何時から開きますか。(p.156)

さよっ〔ちょっと〕、今日の爲替相場はどなって〔どうなって〕いますか。(p.178)

ビールー(p.188)

バスケピットホール〔バスケットボール〕(p.219)

このように b は a1, a2, 西北偽装版のいずれとも異なる特徴を備えており、別種のテキストと見なすことができる。

2. 3. 西北偽装版について

上述のように西北偽装版は今のところ 2 種類の存在が分かっており、國分 2016 でその特徴について概観したが、本稿ではそれぞれを偽 a, 偽 b と呼び、テキストの構成順に従ってもう少し詳しく分析してみたい。

表紙, 裏表紙, 背表紙: 偽 a と偽 b のレイアウトにはごくわずかな違いも見られるが、どちらも西北版を模倣している。

扉: 偽 a にはなく、偽 b にしかない。文言は西北版と同じであるが、レイアウトは異なる。

再版声明: 偽 a は西北版と全体的なレイアウトが比較的似ており、字句、句読点、改行位置なども同じである。ただし西北版では表題にはゴシック体風のフォント、本文には明朝体風のフォントを使っているのに対して、偽 a ではゴシック体風のフォントに統一されている（ただしアラビア数字を除く）。偽 b はレイアウトが西北版とも偽 a とも大きく異なり、句読点の使い方にも違いが見られる。

ところで偽 a, 偽 b とともに、文末に編者への連絡先（**联系地址**）として“**西安市北院门 117 号**”と記されている。この連絡先は西北版の後期のテキスト（B, D, E, F, G）に限って見られ、初期のテキスト（A1~A3, C1~C3）では“**西安市雁塔寺街 24 号**”となっている。このことから偽 a, 偽 b が西北版を装う際に、後期のテキストを参照したらしいことが窺える。

目録: 偽 b はページが大きく欠損しているため、部分的な比較しかできないが、両者は全体的にはよく似ているものの、使われているフォントがやや異なり、偽 b のフォントは陝西版と同じものようである。記載内容は偽 a に関して言えば、西北版ではなく陝西版と一致している。

前言: 偽 a と偽 b は字句に異同がなく、共通の誤りも見られ⁽⁷⁾、レイアウトまで含めてきわめてよく似ている。目視で分かる違いとしては、表題の“**前言**”のフォントがどちらもゴシック体風でありながら、わずかに異なる

ことくらいである⁽⁸⁾。

ともに字句や記号類、フォント等の特徴から見て、陝西版にもとづいていると考えられるが、その記号類について陝西版との間に若干の異同があるほか、本来、末尾に付されている“编者，1992.7”という字句がカットされている。

日文字母五十音図的発音，濁音和半濁音発音対照表：偽 a と偽 b は字句に異同がなく，レイアウトまで含めてきわめてよく似ているが，偽 b は偽 a よりごくわずかに版面が小さく，また記号の印字位置が目視で明らかに異なる箇所が1箇所観察された⁽⁹⁾。字句や記号類の特徴から見て，陝西版にもとづくとと思われるが，陝西版との間には誤植を含めたさまざまな異同が見られる。

本文：基本的に字句に異同はなく，誤植の出現状況も一致し，レイアウトもよく似ている。一方でフォントや記号類の印刷位置に相違が見られ，字体の異なる漢字が四つあり，また偽 b には手書き文字も観察される⁽¹⁰⁾。

奥付：陝西版では扉の裏面（目録の前頁）にあるが，偽 a と偽 b では西北版と同じく巻末（p. 237 の裏面）に置かれ，両者は目視のかぎりレイアウトまで含めてまったく同じものである。記載も西北版に準じているが，異同が1箇所がある⁽¹¹⁾。

以上の比較結果から見て，両テキストの間に密接なつながりがあることは確かであろう。しかし両者がどのように関連し合って生まれたのかを突き止めるにはまだ手がかりが不足しており，現時点では結論を保留せざるを得ない。

3. まとめ

本稿では，これまでに存在が分かっていた3種類の陝西版の海賊版に新たに見つかった2種類を加えたテキストの特徴を分析し，その結果以下のことが明らかになった。

①既存の a1 と新出の a2 については，a2 の方に手書き箇所が増えた点を除けば，字句やレイアウトが一致し，共通のインク汚れも多く見られることから，両者は継承関係にあり，a2 は a1 より後に作られたテキストだと考え

られる。

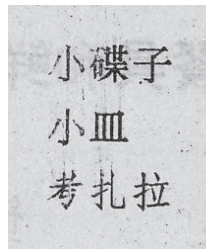
②もう一つの新出テキスト b は a1, a2 や、また西北偽装版とも明らかに特徴を異にしており、これらとは別種のテキストである。

③ 2 種類の西北偽装版は字句やレイアウトの類似性が高く、特に誤植の現れ方がまったく同じである。その一方で偽 b には手書き文字があり、また一部の漢字の字体が異なっていたり、フォントや記号類の印刷位置といったレイアウト面にもわずかな違いが見られる。こうした点から両者の間に強い影響関係があったことは窺えるものの、どちらが先に作られたのかといった具体的な製作プロセスについては現時点では解明できなかった。

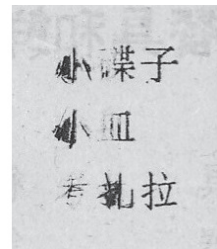
次稿では、今回の分析結果も踏まえつつ、これらの海賊版が前稿で示した正規版の変遷過程とどのように関連づけられるのかを考えてみたいと思う。

注

- (1) これに補足すれば、正規版には表紙と扉の間に遊び紙があるが、a1, a2 にはない。
- (2) 正規版では、正三角形の記号 (pp. 28-32) とやや小振りで縦長の二等辺三角形の記号 (pp. 43-65, 71, 77, 81-88, 114 (B0, B2, B3, B1 のみ), 116) が使われている。a1, a2, b とも正三角形の記号は正規版を踏襲しているが、二等辺三角形のものは別の記号に変えている。
- (3) 具体例は國分 2016 注(4)を参照のこと。なおこの 4 文字について a1 と a2 の筆跡は同じである。
- (4) 右の画像のように、a2 は「小皿」の「小」、その中国語訳“小碟子”の“小”，ルビ“考扎拉”の“扎”が手書きされている。なお“考”は印刷が薄く、手書きの有無が判別しがたい。



a1



a2

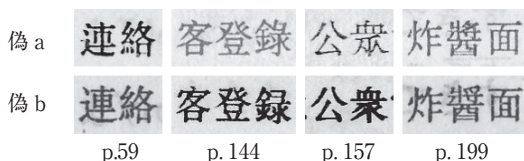
- (5) 記号の使用箇所については、注(2)を参照。
- (6) 小書き文字としては、ほかに「シセンブ——しますから、どうでこさらへ。」(p. 140) の「セ」がある。ただしこれは正規版をそのまま踏襲したものである。
- (7) 前言の p. 4 に“日語的促音也要停一拍，用“×来表示。”(日本語の促音も一拍止めなければならず、「×」で示す) という一文があるが、陝西版では「×」の直後に「」

が入っている。

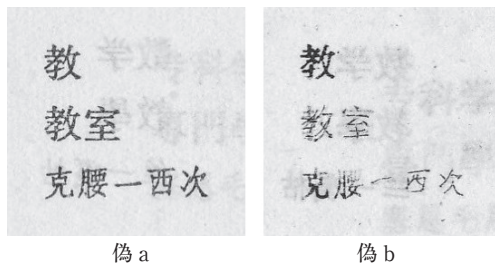
- (8) 偽 b のフォントは陝西版と同じようであるが、陝西版よりサイズが少し大きい。
- (9) p. 11 “hn. fu” のピリオドが偽 b は偽 a より高い位置にある。
- (10) フォントの異同：p. 228 に掲載されている七つの例語について、偽 a ではすべてに楷書体風のルビが振られているが、偽 b ではそのうち“**丝衣机印**”（炊事員）と“**卡衣蒿一滾**”（解放军）だけ明朝体風になっている。なおフォントの違いはここだけのようである。

記号類の印刷位置の違い：例えば、p. 20 の例文に円弧状の合成ルビ線が 1 本使われており、偽 a では真上の日本語例文との間に間隔があるが、偽 b ではルビ線の印刷位置が高く、日本語例文の一部と重なってしまっている。また p. 20 にも円弧状の合成ルビ線が 2 本あるが、今度は逆に偽 a の方が上の日本語と重なってしまい、偽 b はきちんと間隔が空いている。

字体の異なる漢字：以下に当該文字を含む単語の画像を掲げる。



手書き文字：右の画像のように、偽 b の p. 216 「教室」とそのルビの一部が手書きされている。



- (11) 西北版には“ISBN7—5604—0678—5”とあるが、偽装版では中国を示すグループ記号“7”が抜け落ちて“ISBN—”となっている。

参考文献

- 國分建志, 2011, 「誤植の殿堂『説日語』—その誕生と変遷 (一)」, 『文學藝術』第 35 号, 共立女子大学文芸学部, pp. 15-36
- 國分建志, 2016, 「誤植の殿堂『説日語』—その誕生と変遷 (六)」, 『文學藝術』第 40 号, 共立女子大学文芸学部, pp. 1-19
- 國分建志, 2017, 「誤植の殿堂『説日語』—その誕生と変遷 (七)」, 『文學藝術』第 41 号, 共立女子大学文芸学部, pp. 1-17